

地震などの災害に備えて、日ごろからの準備を忘れずに

# 大切な命を守るために、今、できることを

**被害を最小限に食い止めるために災害時の準備を**

3月11日（金）午後2時46分に発生した「東日本大震災」は、マグニチュード9以上の国内観測史上最大の大地震となり、未曾有の大災害となりました。

本町の地下にも布田川・日奈久断層が存在しており、地震発生の危険性があります。いつなるとき発生するか分からない自然災害は、私たちの生活を脅かし、不安に陥れます。災害が発生してから慌てて行動しても、被害は大きくなるばかりです。非常時に自分の身を守るのは、自分自身です。

日ごろからの防災に関する準備が、災害発生時にとっても重要です。被害を最小限に食い止めるためには、防災に関する正しい知識を身に付け、いざというときに適切な行動がとれるように心掛けましょう。

**身近な地域の実情を把握して迅速に的確な行動を**

災害の被害を最小限に食い止めるためには、「自分たちの地域を知る」ということがとても大切です。身近な地域に目を向けて、地域の実情を知ることが迅速な行動へとつながります。もしものときに的確な行動がとれるように、次の項目を確認しましょう。

**【地域の防災での確認項目】**

- 1 消火施設・設備の設置場所
- 2 避難場所（施設）の場所
- 3 地域の危険箇所
- 4 高齢者などの災害弱者の存在

**避難方法や場所、非常持出品の準備などの確認を**

災害発生時は、消防署などの防災機関による消火や救出があると考えがちです。しかし、被害状況によっては、道路や橋、通信網が寸断されたり、車両の

通行が制限されたりするなど、防災機関の活動が十分にできない場合もあり得ます。

そのような場合は、まず自分たちで避難や救助、消火作業などの初期対応を行わなければなりません。適切な対応をとるために、避難時の家族間の連絡方法や集合場所、避難方法や非常持出品の準備、被災者の救助・

救護方法などを確認しましょう。

**地域全体で積極的に防災活動に取り組みましょう**

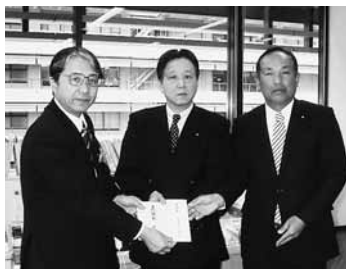
災害発生時は、1人では小さな力でも家族や地域で助け合い、力を合わせれば、大きな力を発揮することができます。自分の家や家族の安全とともに、自分たちの暮らす地域の安全確保に

努めることが必要です。

また、自分たちの地域で平常から防災意識を高めて、積極的に防災活動に取り組むことで、いざというときの被害を最小限に抑えることができます。

日ごろから災害に対する事前の備えを心掛けて、まずあなたの周りから自主防災を進めてみましょう。

## 町から被災地に100万円の義援金を県を通じて寄付



3月29日（火）奥名克美町長と本田新町議会議長が県庁を訪問し、森枝敏郎県健康福祉部長に町からの義援金100万円を手渡し、東日本大震災支援として寄付しました。奥名町長は、「被災地の一日も早い復興をお祈りします」と述べました。

## 被災地への人的支援として宮城県に町職員を派遣

町では、東日本大震災で被災した宮城県東松島市に、人的支援として町職員を5月1日（日）から順次派遣します。主な業務は、被災者の生活再建に関する支援金の申請手続き業務などを担当し、被災地の復旧・復興活動の支援に取り組みます。

# ① 非常持出品を確認しよう! ~いざというときに必要なものは?

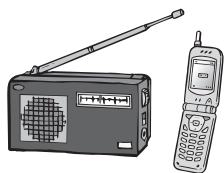
## ▶▶ 1次持出品(避難時に持ち出したい物品)

### 貴重品



現金、預金通帳、運転免許証、印かんなど

### 情報手段



携帯ラジオ、携帯電話、防災行政無線受信機など

### 照明用具



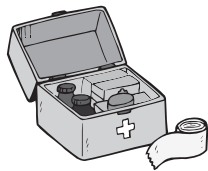
懐中電灯、ろうそくなど

### 衣類



下着、靴下、上着、タオル、紙おむつなど

### 救急医薬品



ばんそうこう、傷薬、包帯、常備薬など

### 非常食品



飲み水(1人1日3ℓ・3日分)、乾パン、缶詰など

## ▶▶ 2次持出品(避難後、復旧までの生活物資)

### 食料品



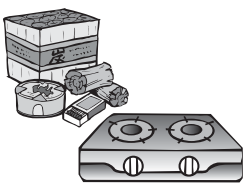
米(10ℓなど)、缶詰、レトルトのおかずなど

### 飲料水



ポリタンクなどでストックし、飲むときは煮沸する。

### 燃料



卓上コンロ、固形燃料など

災害発生後の2次被害などを防ぐためには、安全な場所へ避難することが大切です。避難するときは、避難場所での生活や行動のために最低限必要な物(非常持出品)を持ち出せるように、日ごろから非常持出袋に入れて準備しましょう。

非常持出袋は、非常時にすぐに取り出せる場所に備えておきます。非常持出品は避難のときに支障が出ないように、重さの目安として、男性で15kg、女性で10kgにまとめることが大切です。荷物は最小限にまとめて、リュックサックなど両手を使える背負い式の袋に入れておきましょう。

災害が起こったときには、生活に必要な「水」や「食料」を入手することが困難になる状況が想定されます。避難のときに持ち出す非常食品は3日分が目安とされ、飲み水は1人あたり1日3ℓ(3日分で9ℓ)が必要とされています。保存期間を常に確認して、いつでも持ち出せるものを準備しましょう。ペットボトルの水は軽くて持ち運びが便利なのが利点で、スチール缶の水は重いですが、丈夫で保存期間が長いのが利点です。状況に応じて持ち出しましょう。

また、事前に避難場所(施設)を確認して、避難場所に応じた必要な物を準備することも大切です。



上益城消防署  
増本 信夫 署長

常に災害発生に備えて非常持出品を確認する習慣を  
昨年10月の奄美地方大雨災害での豪雨や、本年3月の東日本大震災での国内観測史上最大の地震などの災害被害は、今までの常識や対応では被害を防ぐのが困難になってきています。災害から2・3次の被害を防止するには安全な場所への避難も効果的な対策の1つと言えます。また、避難の際に大活躍するのが非常持出袋です。いざというときに必要な非常持出袋は、普段から中身を確認することが大切です。ニュースなどで災害情報などを見たら、中身を確認する習慣を付けてください。災害が発生したら、普段と周囲の環境が著しく変わりますので、避難時には慎重な行動をお願いします。また、自分たちの地域を自分たちで守るという心構えが被害を最小限に食い止めます。救助活動などについても、地域の皆さんで協力し合い、助け合う気持ちで迅速に行動することが大切です。